

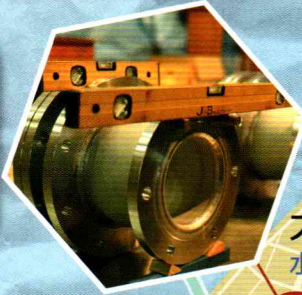
# 大正

あんなものから  
こんなものまで  
つくっています

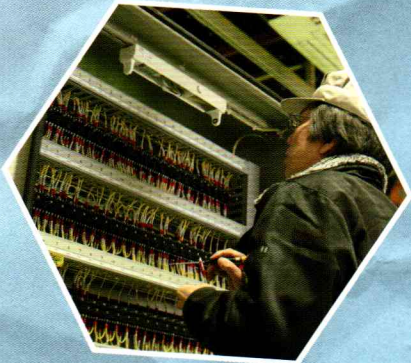
- ① ㊦ゲタ鋼管工業
- ② 大和紙料
- ③ 太田鉄工
- ④ 児島電機
- ⑤ クボタ 恩加島事業センター
- ⑥ 近江産業
- ⑦ サンアグロ 大阪工場
- ⑧ 中山製鋼所

# ものづくり

# MAP



③ 太田鉄工  
水道管・水管橋



④ 児島電機  
制御盤・計装盤



② 大和紙料  
紙のリサイクル



① ㊦ゲタ鋼管工業  
鋼管



⑤ クボタ  
恩加島事業センター  
鋳物



⑥ 近江産業  
鋼板加工



⑧ 中山製鋼所  
鉄鋼



⑦ サンアグロ  
大阪工場  
肥料



# Vol. 3



昭和7年(1932)に発足した大正区は周りを海と川に囲まれた島である。水運豊かなこの地には、古くから大小さまざまな工場が集積し、今日まで大阪を代表する「ものづくり」のまちとして発展してきた。

ほんの少し歩けば、「ものづくり」の息遣いが聞こえてくるまち大正区。今もなお多くの企業が集う中、50年以上上の長きにわたり大正区を支え「ものづくり」の伝統と誇りを持ち続ける企業にスポットを当ててみた。

※工場見学ご希望の方は、大正区役所(06-4394-9942)まで

品質と精度へのこだわりは世界と戦うため。

# 鋼管



## 1 中ゲタ鋼管工業

中ゲタ鋼管工業の武器は、素材となる鋼管を常温の状態引き抜き、様々なサイズを製造する「冷間引抜」と呼ばれる技術。これにより表面肌がきれいで寸法精度の高い製品を作ることができる。そうした加工技術で製造される鋼管は、自動車、建設機械、農機具、熱交換器、各種配管など幅広く使われている。

中ゲタ鋼管工業は、昭和18年(1943)に業界最古の冷間引抜の歴史を持つ5社が合同して創立。「伝統の品質と精度の技術を引き継ぎ、大手には出来ない短納期や小ロット、あらゆる寸法の組み合わせが出来るのが強みです」と、業務部長の島田文夫さん(写真)。ユーザーからは、標準にはないサイズや高品質な製品を求められ、寸法精度が0.1mm以下のものにも対応している。

これまでも、これからも、品質と精度にこだわって世界に誇る製品を生んでいく。



鋼管は、要望に合わせた外径、肉厚、長さで製造される。納品先ですぐに使えるサイズになっていることが好評の秘訣。



中ゲタ鋼管工業で働く職人の平均年齢は34歳。若い世代も積極的に技術を磨いている。

●大正区三軒家東 3-11-25  
☎06-6551-2031  
<http://igeta-kk.co.jp/>



鋼管溶接技術に定評あり。各種非破壊検査にも対応し、より良い品質の製品を加工できるのが強み。

鋼管・ステンレス管加工のスペシャリスト。



## 3 太田鉄工 水道管・水管橋

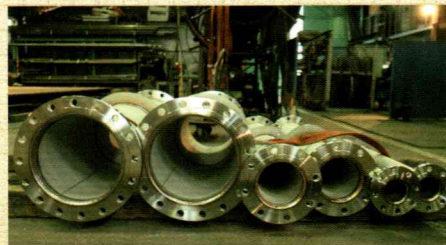
まだ造船所が建ち並んでいた明治28年(1895)、太田鉄工は創業。主に船の整備を行っていたが、現在、その技術は国内の水道インフラ整備事業へと発展。浄水場内の配管や、川や谷を越えて水を運ぶための水管橋など、私たちの生活に必要な水を確実に運ぶためのものづくりを行っている。

太田鉄工が誇るのは、何と言っても設計→製作→工事を実施できることで、品質のコントロールと顧客のニーズを満たしている。「現地工事も施工するため、現場での問題点もすぐにフィードバックでき、次の製品作りに反映できる。だから、多くのお取引様から、太田鉄工に任せておけば、大丈夫と言ってもらってます」と代表取締役社長の谷村勝広さん(写真前列中央)。

HST工法(複合構造溶射工法)という画期的な工法を開発することで、大幅な長期防食を可能にするなど、顧客ニーズに応えている。

現在は、モンゴル、ケニア、スーダンなどの海外での社会貢献事業に携わるなど、世界で活躍するものづくり企業として躍進している。

●大正区泉尾 2-25-25  
☎06-6552-4824  
<http://www.ohata-tekkou.co.jp/>



## 2 大和紙料

創業者の「道ひとすじに」という想いを受け継ぎ、間もなく創業140年(明治9年(1876))、大正区に移転してから80年を迎える老舗の古紙メーカー。大和紙料の製品は、「古紙の回収」「色や品種ごとに選別」「圧縮梱包機によって立方体に整形」「製品化」という工程を経て、全国各地の製紙メーカーに出荷されている。

「古紙メーカーの多くは家庭から出る紙を扱うのですが、うちは印刷所や紙を加工する工場の上質紙を主にリサイクルしています。日本の古紙の品質は世界一であると国際的に認められています。これからはアジア諸国、そして最終的にはヨーロッパをめざしたい」と語るのは、代表取締役社長の塩瀬宣行さん(写真)。

一方で、区内の「子ども見守り隊」活動への協力など、地元への貢献も忘れていない。

日本の古紙再生技術、大正区から世界へ。



選別作業は各製紙メーカーの規格に従い、不純物が混ざらないように人間の目で厳しくチェックする。

●大正区三軒家東 2-9-10  
☎06-6551-2231  
<http://www.daiwashiryu.co.jp/>

紙のリサイクル



圧縮梱包機によって1つの塊になった物を「ペール」と呼ぶ。1つのペールで約1トン。





世界のくらしを支えるクボタに  
恩加島の鋳物あり。



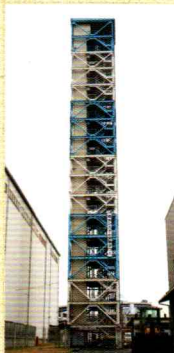
「湯」とも呼ばれる3トンの溶かした鉄が取鍋(とりべ)で運ばれる現場は大迫力。溶湯の温度は1,400度以上!

## 鋳物

### 5 クボタ 恩加島事業センター

明治23年(1890)、創業者の大出権四郎(後の久保田権四郎)が鋳物業として看板を上げたところから始まったクボタ。現在では、農業機械や建設機械のトップメーカーとして、農業・産業用のエンジンケースや水道用鉄管などを高度な鋳物技術で製造。創業当時の鋳物にこだわり、その飽くなき探究心を受け継いでいるのが「恩加島事業センター」。1917年から鋳物一筋、世界に広がるクボタ全社でも「鋳物のことは恩加島に聞け」と言われるほど、その経験と蓄積されたノウハウは一目置かれている。「鋳物の型は、どのように溶けた鉄が流れていくかまで設計しなければなりません。職人としての熟練の経験があってはじめて、その設計が可能になるんです」とセンター所長の飯塚育生さん(写真)。

センター内にある「クボタ恩加島鋳物ミュージアム」では、通常の木型を用いて造型する工法や、発砲スチロール模型を用いて、実物や造型を行う消失模型鋳造法など鋳造技術について模型を使ってわかりやすく説明されており、クボタのものづくりを知ることができる。



17階建てのタワーでは排水システムの検証ができる。



工場内ですれ違う際の挨拶は「こんにちは」ではなく「ご安全に」がクボタ流だそう。

●大正区南恩加島 7-1-22  
☎06-6552-1181  
<http://www.kubota.co.jp/>

クボタ恩加島鋳物ミュージアム

### 4 児島電機

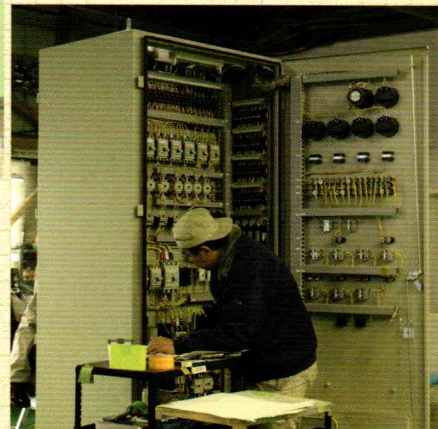
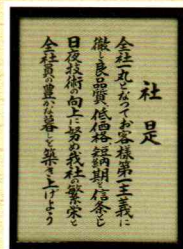
**制** 御盤と計装盤メーカーの児島電機は、昭和14年(1939)に創業。主に発電所や電機メーカーに製造納入している。とりわけ、昭和60年に自社に板金工場を併設以来、自社内での一貫生産による短納期は評判を呼んでいる。

「計装盤は配管施工が難しく、当社では5年以上かけて溶接技術を習得した技能者が対応しています。これはなかなか他社では出来ないこと」と代表取締役社長の児島満さん(写真)。計器が入るボックスを真四角に組み立てる工程では、溶接で生じる歪みを計算し、寸分違わず仕上げる。

そんな制御盤や計装盤で培った高度な技術は、「しんかい6500」や「種子島宇宙センターのロケット発射台」など、高い信頼性が要求とされる分野でも活躍している。



制御盤の配線は1本違うだけでも事故の原因になるため、常に「100点満点のチェック」を心掛けている。



信頼性の高い技術は、  
深海や宇宙でも大活躍。



板金工場では最新鋭の機械が稼働。

●大正区北恩加島 1-17-30  
☎06-6552-7373  
<http://www.kojimadenki.com/>

### 6 近江産業

## 鋼板加工

**戦** 後間もない昭和20年代に近江産業は誕生(大正区には昭和30年代から)。創業時はわずか数名で薄鋼板の販売からスタートし、造船用鋼材の製造を手掛けることで業績を伸ばした。現在は、創業当時のノウハウを生かし、さまざまなニーズに応えるべく1次加工はもちろん、鋼板加工の可能性を広げて、今や「鋼板加工の総合デパート」と称されるまでに成長を果たした。

「薄板・中板・厚板ごとに専用の生産ラインがあるのは近江産業ならではの。それぞれの設備をしっかり整えた工場も珍しいはず。すべては、高い品質の製品を求めのお客様のためです。近江産業は、創業者が彦根出身で、「売り手よし、買い手よし、世間よし」という三方よしの近江商人の魂が、今なお私たちに息づいているんです」と語るのは常務取締役の山脇祥生さん(写真)。

顧客の要望に応えるためにある職人たちの技術。それこそが次の時代に必要とされる、「最先端」の加工技術に違いない。



板厚の厚いコイルを切断できるのは、関西でも数社のみ。12mmまでの厚みを切ることができる。

●大正区鶴町 4-13-13  
☎06-4394-3500  
<http://www.ohmi-sangyo.co.jp/>

薄板から厚板まで  
鋼板加工の総合デパート。



1つのコイルは5~30トン。巻き癖のあるコイルを、ローラーに3回かけてフラットにしていく。





強くて軽い鉄でニーズに応える  
大正のランドマーク。



# 鉄鋼

工場内の巨大な設備は現在も圧倒的な存在感を示している。



## 8 中山製鋼所

昭和3年、大正の船町に工場を構えた中山製鋼所（大正8年（1919）創業）。過去には3,000人ものが働き、周辺の商店まで人があふれていたという時代もあり、今でもその工場群の圧倒的な存在感で、大正区のランドマークとして広く知られている。

現在、中山製鋼所ではホットコイルや薄板を製造する熱延工場と、棒鋼・線材の鋼材を製造する棒線工場をメインに稼働。梅田スカイビル、名古屋ドームなどの建築をはじめ建設機械・産業機械等の構造材、自動車部品等のあらゆる分野で中山製鋼所の製品が使われている。「中山製鋼所グループは、全国に40ヶ所以上の拠点をもち、多品種・小ロット生産で小回りを効かした迅速な納期対応をしております」と総務人事部長の三好裕さん。さらに、強く加工性にも優れた「NFG」（結晶粒度を微細にした、強くエコな鋼）という世界初の技術も開発。「大河内記念技術賞」など数々の賞を受賞し、各方面から期待されている。



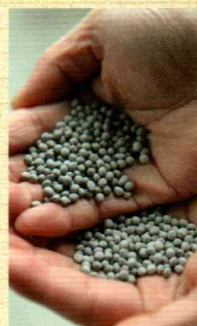
映画『ブラックレイン』やNHK土曜ドラマ『ポーダーライン』をはじめ、人気マンガ『こち亀』にも登場するなど、とにかく“絵”になる工場。

●大正区船町 1-1-66  
☎06-6555-3111  
<http://www.nakayama-steel.co.jp/>

## 7 サンアグロ 大阪工場

**前** 身の会社から数え、間もなく100年目（大正9年（1920）～）を迎えるサンアグロの大阪工場。今も昔も、近くを流れる木津川から原料の積み下ろしを行うなど、大正の地とは密接に関わりを持つ。多様な肥料製造を通じて、日本の農家をはじめ、家庭菜園、ゴルフ場までをサポートしてきた。

「農家の方には、いつでも安定した生産を行ってほしいんです。そのためには環境や季節など、各農家のニーズに応える肥料が必要です。大阪工場だけでも200種類以上の肥料を作っています」と工場長の中山和也さん（写真）。複数の肥料を混ぜることで少量多品目を実現して、細やかなニーズに対応するとともに、その製造過程にもこだわる。中でも粒を同じ大きさにそろえる「造粒」と呼ばれる工程のポイントは、原料の水分調整。ミリ単位の厳しい規格を達成するために、熟練した職人が粒を手ですくい、毎日厳しく目利きしている。大正で生まれた肥料が農家の手に渡り、土に還って農作物となり、私たちの食卓を支えている。



肥料の粒は、機械で均等に蒔き、均等に作物を育てるために、厳しく大きさが揃えられる。

# 肥料



工場内では作業用のロボットが大活躍。それぞれ「春子」「夏子」「秋子」との名前が！



食卓を支えるために  
つくる肥料は200種以上。

●大正区船町 1-3-83  
☎06-6552-1212  
<http://www.sunagro.co.jp/>

**子** どもたちがものづくり体験に夢中になる1日。それが「大正ものづくりフェスタ」。フェスタでは区内企業がチームを組んで、「どうすれば子どもたちに“ものづくり”の楽しさや素晴らしさを伝えることができるか」を、自らが持つ技術や資源を活用しながら真剣に考えています。ものづくりのプロが趣向を凝らした内容に、目を輝かせながら取組む子どもたちやその様子を微笑ましく見守る親御さんの姿からは、大正区の“ものづくり”の底力が伝わってきます。（毎回約1,000名参加）

大正区のものづくりの魅力をまるごと伝えるこの取組みでは、区民と企業との交流、そして企業どうしの交流の輪がどんどん広がっています。



▲「大正ものづくりフェスタ記録集」

大正区だからできる、  
ものづくりの体験と工場見学。



**も** のづくりの魅力は現場にあり。「大正ものづくりMAP」掲載企業を中心としたさまざまな工場での見学会が好評を得ています。

親子で参加できる「区民向け工場見学会」や、近隣学校の校外学習から全国各地の修学旅行生まで見学・体験に訪れるなど、ものづくりのまち大正区ならではの取組みを行っています。

詳しくは、大正区役所までお問合せください。  
(06-4394-9942)

『大正ものづくりMAP』▶  
バックナンバー

